

安田地区山林火災の概要

香川県小豆地区消防本部

1 はじめに

この火災は、風光明媚な瀬戸内海国立公園の中心に位置する小豆島で発生し、覚知から鎮火まで24時間を要したものである。小豆島は、人口約4万1千人、面積約170km²、内海町、池田町、土庄町の3町で構成されている。気候は温暖寡雨の典型的な瀬戸内気候、年間平均気温約16度、雨量は年平均約1,100mm前後で、我が国では少ない地方のひとつにあげられている。地形は山岳が海岸近くまで延びていて平地が少なく、森林面積は約71%で林相は雑木林が中心である。

2 火災の概要

(1) 火災関係時分

- ①出火日時、平成4年2月27日13時49分頃
- ②覚知日時 2月27日13時53分
- ③鎮圧日時 2月28日10時53分
- ④鎮火日時 2月28日13時40分

(2) 出火場所

香川県小豆郡内海町安田字新谷乙575番地4

- (3) 焼損面積 普通林(私有)26ha
- (4) 損害額 6,071千円
- (5) 消火活動、炊き出し、調査等関係者人員

①消防職員 延113名

消防本部職員 延108名

神戸市消防局職員 5名

②消防団員 延482名

内海町消防団 延310名

土庄町消防団 延101名

池田町消防団 延71名

③内海警察署員 延60名

④内海町役場職員 延56名

⑤地元住民 延160名

(6) 出場車両、延70台

①消防ポンプ自動車 延18台

②小型動力ポンプ付積載車 延34台

③その他 延18台

(7) ヘリコプター

①神戸市消防局ヘリコプター 1機

(8) 焼損した山林状況

山林所有者は36名で広葉樹5割、針葉樹5割の混生林

(9) 出火原因

この火災は、内海町の水がめである粟地ダムへ通じる幅員6mの道路沿いの山裾から燃え出しているため、原因について当本部では、たばこの投げ捨て、放火についての聞き込み等検証に努力したが、確たる物証と証言が得られず本火災の原因は不明とした。

3 現場の位置

この火災が発生した場所は、小豆島の東部に位置する内海町の中心部から、北方約 1.6 kmの粟地ダム西側である。

内海町は、中央北より嶮岨山、日本三溪の一つ寒霞溪等一連の山々が東西に並び、これを主軸として東部海岸沿いに走る山々と、土庄町、池田町との境界に沿った山々があり、平坦地は南に開いている。山は急傾斜で海におちこんでいて、東部海岸に極めて狭い平坦地が点在している。地質は、山地の大部分が花崗岩質であり、平坦地は砂質壤土で肥沃である。気候は、瀬戸内式気候の温暖であるが雨が少なく、また北は中国山脈、南は讃岐、四国山脈に遮られているので、台風、季節風等の直撃を受けることは少ない。しかし反面、降雨量が季節的に偏し、しかも山は高いが奥が浅いので、干ばつに悩まされることがしばしばである。そのため、小さい溜め池、ダムが比較的多い。

出火点は、内海町の中心地にある内海分署から北 1.6 km地点にある粟地ダムから南西に約 80 m下った所の道路沿いの山裾(海拔 147 m)である。出火後約 100 m～150 mの幅で 300 m程山頂方向に燃え、その地点から 200 m～350 mの幅で 750 m山頂方向に谷や峰の境なしに燃え、小豆島八十八ヶ所札所の第 14 番清滝山(海拔 450 m)の南 450 m付近まで延焼した。

4 消火活動状況

平成 4 年 2 月 27 日(木)

13時53分 安田粟地ダム西側で山林火災発生による出場指令

13時54分 内海分署 7 名、車両 2 台で出場、

隣接の池田分署 4 名同時出場。

13時55分 本署大隊長以下 9 名出場

13時56分 内海町消防団 6 分団中 5 分団召集

13時56分 内海分署ポンプ隊現場到着

14時00分 地元安田分団現場到着

14時05分 草壁分団、苗羽分団現場到着

14時06分 池田分署ポンプ隊現場到着

14時13分 内海分署 A 地点にて放水開始

安田分団 A 地点にて放水開始

西村分団、坂手分団現場到着

14時18分 苗羽分団、草壁分団、西村分団 A 地点にて放水開始、坂手分団 G 地点にて放水開始。

14時20分 大隊長現場到着、指揮本部設置

14時40分 現場 A 地点付近をほぼ鎮圧するが B 地点付近は延焼拡大。

14時44分 消防署非番職員次々と現場到着

14時58分 B 地点付近を鎮圧

15時00分 粟地ダム北側 F 地点付近へ強風に漏られて飛び火し、激しく燃えだす。

15時05分 消防本部災害対策本部設置

15時18分 福田分団召集

15時22分 強風に煽られ次々と飛び火し延焼拡大、隣接の池田町消防団出場要請。

15時45分 山頂方向に次々と飛び火激しく土庄町消防団出場要請

15時58分 池田町消防団現場到着

16時00分 現場は急傾斜と火勢延焼拡大、消防職、団員の疲労等を検討し、地上からの消火活動では消火困難と判断、広域航空消防応援実施要綱に基づきヘリコプター要請。

16時06分 福田分団現場到着

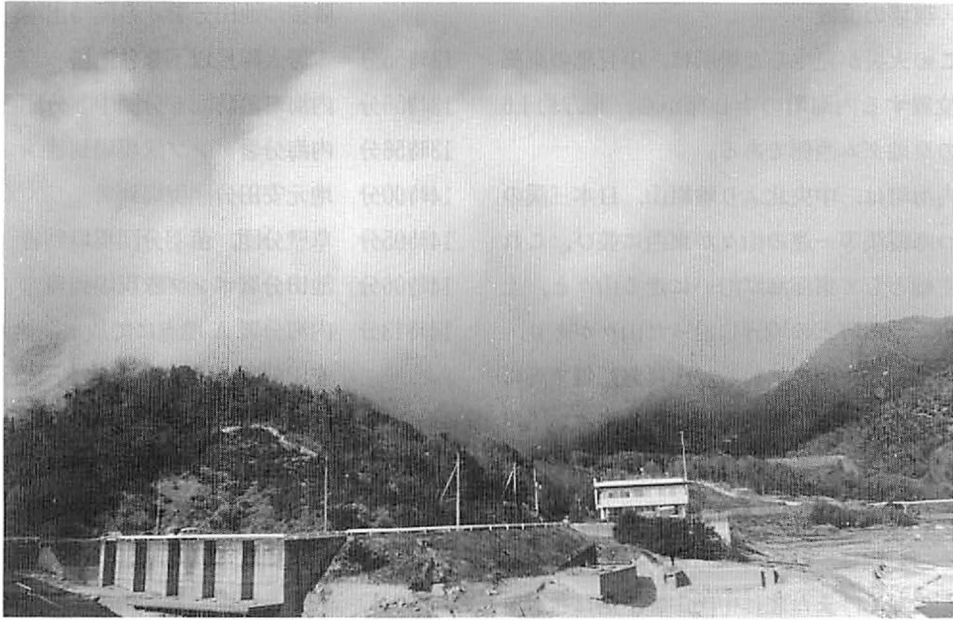


写真 火災現場

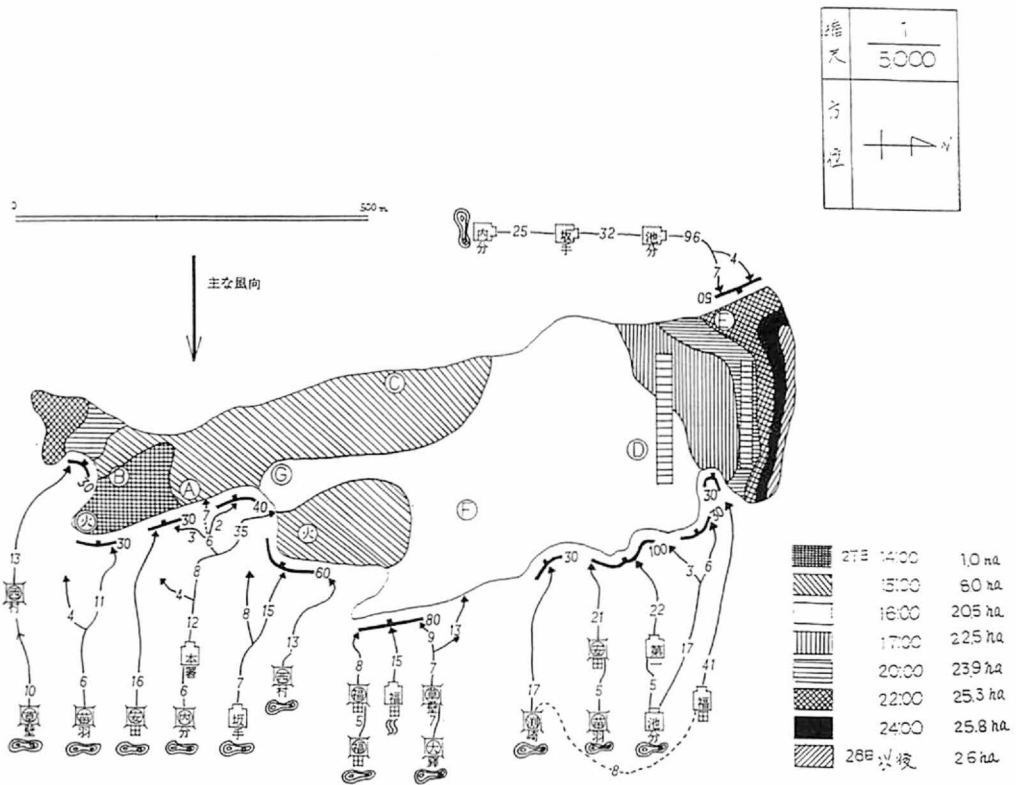


图1 内海町安田地区山林火災動態図

16時15分 焼損面積 8 ha
 16時27分 土庄町消防団現場到着
 18時49分 夜間の消火活動は危険なため、消防団員全員現場指揮本部へ集結。
 19時40分 池田町、土庄町消防団現場引き揚げ、内海町消防団は現場指揮本部にて待機。
 19時48分 神戸市消防局ヘリコプター、天候状況に関係なく飛来予定の通知あり。
 21時38分 焼損面積 25 ha
 22時20分 出火点上方の A 地点付近再燃、待機している団員にて粟地ダムへ水利部署し、放水開始。
 23時43分 A 地点付近の火勢鎮圧。

2月28日(金)

0時35分 A 地点付近で消火活動をした団員は、現場指揮本部で再び待機。
 0時55分 夜間の消火活動は危険であり、風も収まり火勢も緩慢となったので、地元安田分団は粟地ダム管理事務所で警戒を続け、それ以外の分団員は現場を引き揚げ自宅待機。
 1時32分 夜間の消火活動は危険なので、消防職員は各部所にて待機。
 4時00分 内海分署、安田分団火災現場巡視
 6時20分 仮設ヘリポート確保
 6時53分 神戸市消防局ヘリコプター、火災現場上空より写真撮影開始。
 7時06分 ヘリコプターによる空中散水開始
 7時29分 消防職員、現場到着防ぎょ活動再開
 7時51分 消防団員、現場到着防ぎょ活動再開

8時00分 焼損面積、25 ha
 10時52分 火勢鎮圧
 12時39分 ヘリコプターによる空中散水終了、散水回数 40回、24 kl、写真撮影 3回、偵察飛行 2回、現場活動時間 7時間09分
 13時00分 焼損面積 26 ha
 13時40分 鎮火
 消防団員現場引き揚げ
 13時57分 現場指揮本部解散
 14時02分 神戸市消防局ヘリコプター引き揚げ
 14時15分 消防職員現場引き揚げ

5 消火活動の反省

(1) 良かった事項

- ① 隣接消防団への応援要請を早めに行った結果、鎮火までには24時間を要したが消火活動は有利に展開できた。
- ② 報道機関等への窓口を内海分署に置き、現場指揮本部は指揮に専念できた。
- ③ 当本部は全国波を導入していたので、応援ヘリコプターと相互に情報交換でき、現場指揮するうえで非常に役立った。
- ④ 現場は急傾斜地が多くて消防隊が近寄りにくいため、ヘリコプターによる空中散水は効果大であった。
- ⑤ 現場上方に幅員6mの道路があり、ホース延長、延焼阻止に効果があった。
- ⑥ 消防署、消防団は、平日頃から相互にコミュニケーションを図っていたので、消火活動特に中継送水等が円滑に行われ、また活動に対する指揮命令についても混乱を招くことがなかった。

- ⑦ 大規模山林火災での焼損面積を調査するには時間を要するが、今回の火災ではヘリコプターを利用したので短時間にしかも正確にできた。
- (2) 改善を要する事項
- ① 夜間の消火活動には照明が絶対必要である。全団員への照明器具の整備が必要と痛切に感じた。
- ② 山林火災には、ジェットシューターを必要とするが絶対数の不足を感じた。
- ③ 消火困難と判断、ヘリコプターの応援を受けたのであるから、空中写真をもっと消火活動に生かすべきであった。
- ④ 消防ヘリコプターによる空中散水消火活動の応援は初めてのことであり、消火活動は有利に進んだがお互いに遠慮があった。今後はヘリコプターと指揮本部の間で、情報交換を密にして消火活動に役立たせるべきである。

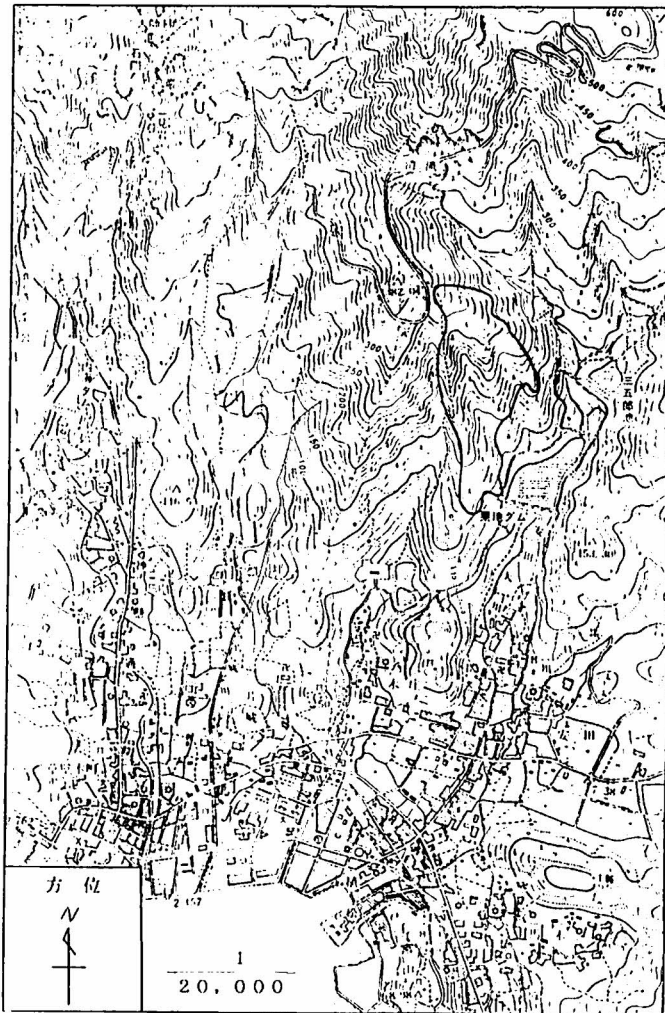


図2 附近見取図